

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1175300282		
法人名	(株)寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市緑3-16		
自己評価作成日	令和 5年 2月 9日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5年 3月 15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様自身が出来ることを最大限に活かし、一人ひとりが活躍できる環境づくりに努めている。笑顔が溢れる日々を過ごしている。</li> <li>・同じ敷地内にデイサービスと居宅介護支援事業所があるので、連携が取りやすい環境である。</li> <li>・コロナ禍で本年度も家族交流会を実施出来ず、面会制限を掛けているので面会も減少。電話や文書等で定期的にご家族との意見交換を行っている。</li> <li>・窓越しの対面やビデオ通話を実施し、多くのご家族に活用いただいている。</li> <li>・同系列内理学療法士等のセラピストに毎週体の状態を評価し、課題を見出し、リハビリに取り組んでいる。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>目の前に緑豊かな公園がある自然に恵まれた事業所である。デイサービスと居宅介護支援事業所が併設されていて、連携が良く取れている。4項目の事業所理念を掲げて、日々の支援に努めている。事業所と家族の連携が密であり、コロナ禍で家族交流会は中断しているが、窓越しの対面やビデオ通話などで、日常生活を家族に伝え、コミュニケーションを深めている。また、職員も利用者に寄り添い、よく話を聞いて、会話が弾んでいる。利用者と一緒に作った、季節を感じる七夕飾り、クリスマスツリー、ちぎり絵などは、市主催の「活動・作品展」に出展している。また、医療との連携では、2か所の提携医があり、希望者には、訪問歯科も毎週来ている。日中は、隣のデイサービスの看護師にアドバイスがもらえ、理学療法士が来て作った機能回復のメニューを実践している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の入り口に理念を掲示している。毎年2回の職員面談で施設の理念を共有し、意見交換をしている	4項目の事業所理念を作成して、掲示している。在宅で楽しんでた趣味などを継続していただき、市が主催の「活動・作品展」に参加して地域との交流を深めるなどにより、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度もコロナ感染対策の為、行事が中止になってしまい、交流活動はほぼなし。地区の清掃活動に職員が参加する程度で、入居者を含めた交流は行えていない。	自治会に加入している。地域の清掃活動に参加している。また、市が主催の「活動・作品展」に参加して、地域住民からアンケートを頂き、事業所の理解を深めて頂いている。求人票なども配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は運営推進会議に地区の自治会長にご参加いただき、認知症の方や施設についての理解をお願いしていたが、コロナ感染対策の為開示自体が中止、回覧にてお知らせする程度になっている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、本年度も開催中止。議事録を郵送し、情報提供している。	コロナ禍で、対面での運営推進会議は、中止している。市の担当者、地域包括支援センター、家族代表、自治会長、民生委員等に事業所の現状、活動報告等を書面にして配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月の運営推進会議は、本年度コロナ感染対策の為中止。地域連絡会は年4回のウェブ開催。本年度は3年ぶりに市役所内で活動展開催し、参加。	運営推進会議の議事録は、市の窓口に、持参している。市が音頭を取っている、地域密着施設地域連絡会がある。また、市役所が主催の「活動・作品展」に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月にて身体拘束適正化検討委員会を実施。年2回の勉強会を実施。職員の認識を深める。今年度も身体拘束は一度もなし。	定期的に身体拘束適正化委員会、研修会が行われ、身体拘束について周知徹底されている。「立たないで」などのスピーチロックは、忙しい時など無意識に、出てしまいがちなもので、それは拘束にあたることを認識して、お互い注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年4回開催。勉強会も1回行い、職員の共通理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修も機会が減少している。今後、職員の勉強会、スキルアップが課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結時には入居者様、ご家族に十分な説明を行い、不安点や疑問点がないか確認、納得いくまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年にご家族代表の方に運営推進会議へご出席いただき意見・要望をうかがっていたが会議の開催が中止の為、文書や電話にて伺った。 いただいたご意見を運営に反映している。	家族会はコロナ禍で、中断している。家族に電話連絡した時に意見や要望を聞くよう努めている。また、月1回発行の広報誌で、事業所の現状と個人の様子を写真を入れて発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも年2回の個人面談を実施。職場の改善点や個人的な要望等を聞く機会としている。	業務カンファレンスが、月1回開かれている。毎日15分程度のカンファレンスがあり、職員から意見や要望、日々の支援の中での改善策などが出される。年2回の個人面談でも意見や要望を聞いている。	日々の短時間カンファレンスで小さなことも確認できるしくみはあるが、多様な専門職からの情報を得ながら考える機会を検討し、日々のケアに反映できることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、人事考課表を実施。 職員の自己評価を踏まえて上司が面接を行い悩みや要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染対策為、外部での研修は自粛。 職場内において勉強会を実施し、能力向上に努めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の連絡部会が年4回すべてウェブ会議で開催。グループ内に6か所グループホームと本部職員を通じて、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調や入居前の面談でご本人の要望を聞いている。 ご本人の様子を見、お話を聞きながら安心していただけるよう声掛けなどを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での様子や心配、希望を伺いながら不安を減らし可能な範囲内で希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを把握し、困っていることの解消の為に様々なサービスを念頭においている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	整容や身の回りの整理整頓、食後の食器拭きなど、出来る限りご利用者様に行っていた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはお便りや電話など、まめに連絡を取っている。 訪問しやすい環境を整え、相談に乗りながら共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、交流が厳しいがなるべく今までの習慣や好きなこと、人のかかわりがまったく変わってしまう事がない様、支援している。	面会は、窓越しの電話面談としている為、馴染みの人の来訪は少なくなっている。絵を描くこと等、昔から続けている好きなことは継続できるよう支援している。年賀状を家族に出しており、返事が届くと喜ばれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりはなるべく邪魔せず、見守りに重点をおいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、家族や本人の望む形でフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や本人のこだわりや習慣をアセスメントする用紙を使い、本人家族の思いを職員が共通理解できるように努めている	契約時に、本人や家族から生活歴、趣味、嗜好などをキメ細かく聞き取っている。このアセスメントシートは、職員同士共有している。また、日々の支援のなかで、利用者の願いや希望を聞いているが、困難な場合は、表情や仕草で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査にて、生活歴や現在の過ごし方を本人や家族、サービス提供者に聞き取りアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し、出来る事とできなくなってきた事などはカンファレンス等で情報交換している。ストレスを感じている方には、できる限り話を傾聴する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、ケアでの気付きや意見交換をして現状にあったケアプランの作成に努めている。	全体会議の中で、ケアカンファレンスも行われる。毎日の15分業務・ケアカンファレンスでも、利用者の状態の意見交換がなされている。カンファレンスノートに記載して、皆で話し合いながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアでの気付きや情報を個別ノートに記入し、全スタッフが周知出来る様共有している。 ケアの実践後は評価し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人から要望や変化があった際には、こまめに家族に連絡し、それぞれにあったサービスを提供するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策のため、ボランティアの方達との交流がなし。今後の課題		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った医療機関と連携し、かかりつけ医以外でも今まで通っていた専門医にも通えるよう提供している	提携医が2か所あり、それぞれ月2回の訪問診療がある。希望者は、訪問歯科を受診できる。夜間対応では、2か所の提携医が、それぞれ、直接対応したり、看護師を通じて相談を受けたりしている。理学療法士のリハビリ指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師に状態を看ている。気になる事は相談し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ介護サマリーを提供し、入院先でも本人が困らないよう努めている。ホームで急変した場合の対応などは事前に往診医と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族の意向をうかがい、往診医や看護師と連携を取りながらホームでできる限りの事をするよう努めている。	重度化した時の指針を作成し、契約時にそれを説明して、署名捺印頂いている。年に1回は家族に現状について書面で報告している。終末期には、家族、医師と連携を深め、事業所で出来ること出来ないことを説明して対応している。看取りはおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージや喉に詰まらせたときの対応など、消防署の方に教えていただき、全スタッフが周知する様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員に来ていただき、夜間を想定した避難訓練や消火訓練をDSのスタッフと合同で行っている。	避難訓練は、年2回実施しており、隣のデイサービスと合同でおこなっている。夜間想定でも実施している。地震対策として、家具の固定、防災頭巾も準備している。また、飲料水、食料、衛生用品など1週間分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、プライバシーや自尊心を損なうことがないよう日頃より声がけなどに注意し接している。	利用者は、人生の先輩。接遇マナー、言葉遣いには、接遇マナー委員会などを通じて、注意喚起している。プライバシーについては、個室はノックして声掛けをし、トイレや浴室のドアは必ず閉めることを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やおやつを好みの物にしたり、担当がアセスメントしてご本人の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の会話の中から、本人の要望や思いを汲み取るよう努めている。 その人らしい生活が送れるよう、出来る範囲で希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や髪型・メイクなど、満足が行く身嗜みが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で職員とともに食事の準備や片づけを行っている。テーブル拭き、食器拭き、調理や盛り付け個人個人で出来ることをおこなっていただいている。	食材は外注で届き、献立、カロリーも計算されている。調理は職員が中心に行い、出来る人はテーブル拭きなど手伝っている。季節を感じる、正月のおせち料理、土用の鰻などがあり、家庭菜園でとれる野菜や果物も喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み食、ペースト食の対応している。 水分摂取量が少ない方は、水分補給が常に出来る様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(歯磨き)を実施している。 訪問歯科を利用し、口腔内の清潔に努めている。 必要な場合は介助を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を生かして声掛けを実施。排泄サインを見逃さないよう注意深く見守っている。	タブレットを活用して、トイレの回数、時間、量、排便の有無など確認できている。排泄パターンを見ながら、トイレ誘導している。夜間は、定時に声掛けしてのトイレ誘導やオムツ交換をしているが、ポータブルトイレを使う人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(ヨーグルトや牛乳など)をおやつに取り入れている。 排便コントロールは、週に1回看護師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望や体調、バイタル状況等をもとに、柔軟に対応している。	入浴は週2回、概ね午後2時過ぎからとしている。入浴嫌いな人は、無理強いしないで、日にちや担当を変えて、対応している。マイシャンプー持ち込みは可能である。入浴中は、職員と1対1の会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮しながら、昼寝をすすめたり、就寝時間を変更してケアしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬一覧をスタッフの目の届く場所に表示して効能や副作用について把握できるようにしている。 症状の変化をNSやDrに都度報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的な趣味等を継続できるよう支援している。現在では、絵画、囲碁、調理。コロナ以前は、フロアやデイサービス利用者とも趣味(囲碁や麻雀等)が出来るよう支援していたが、コロナのため、交流をなくしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日はホーム前の公園へ散歩に出掛けたり庭で日向ぼっこをしている。 本年度も引続き、コロナ感染対策の為外出会などの外出レクリエーションは中止している。	天気の良い日は、目の前の公園を散歩している。南向きの縁側でお茶会や日光浴を楽しんでいる。隣のコンビニエンスストアに買い物に行くこともある。コロナ禍前は、お花見など出掛けていた。今は、遠出が出来ないので、理学療法士が、個別課題を作り、室内で運動不足解消をおこなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホーム長が管理している。買い物の希望がある時はスタッフが代行したり、近所のお店で済むものであれば、一緒に買い物に行き、好きなものを本人に選んでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	私物の携帯電話は、家族と相談して使用方法を決めている。基本的に、携帯電話の使用は自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物を制作したり、展示している。 整理整頓はもちろん、トイレの場所が分かりやすいようにプレートを表示している。	リビングは、南向日差しが眩しいくらい明るい。エアコンや加湿器、空気清浄器も完備している。換気も一時間毎に、おこなっている。壁には、季節毎職員と一緒に制作した、七夕飾り、クリスマスツリー、ちぎり絵等が飾られている。市の作品展にも出展した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相撲観戦やニュースをご覧になることが好きな方はなるべくTVの近くの席にしたり、窓辺が好きな方はそのようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みや本人の思い出(写真や趣味など)をお持ちいただいている。 ベッドは介護用ベッドを利用しているが、寝具に関しては使い慣れたものを使っている。	エアコン、洗面台、クローゼットは備えつけられている。自宅で使い慣れた物、趣味の物など好きな物を持ち込んでいる。タンス、テレビ、家族の写真、仏壇などもある。掃除は、出来る人は、職員と一緒にこなしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の動線は常に確保しており、手すりも利用しながら歩行しやすい環境を整えている。 出来る事はご自分で行っていただき、職員は極力見守りに努める。		